

わたしたちと被爆者
被爆者とのこれからの過ごし方

2024.02.10

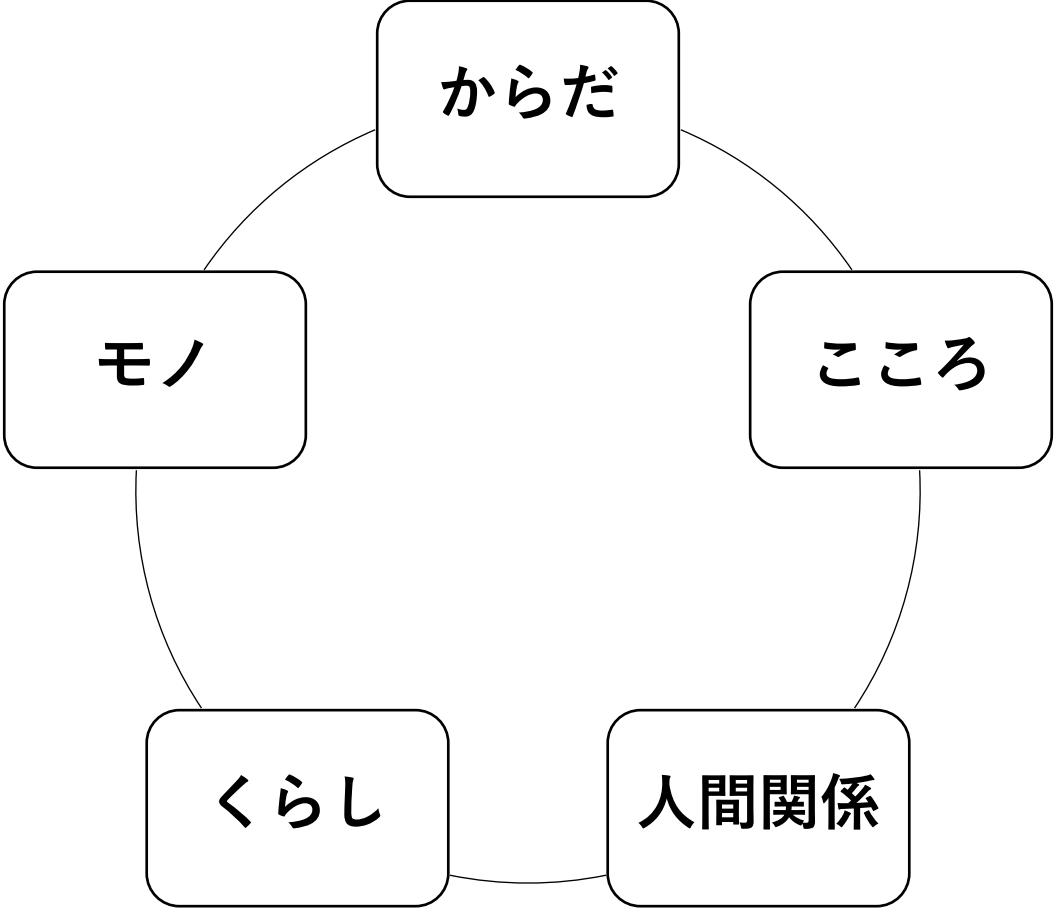
林田 光弘（RECNA 特任研究員）



林田 光弘

長崎大学 核兵器廃絶研究センター（RECNA）特任研究員
一般社団法人Peace Education Lab Nagasaki 代表理事
一般社団法人長崎みんな総研 理事
すすめ！核兵器禁止条約プロジェクトメンバー

長崎市出身。2009年「高校生平和大使」としてジュネーブ国連欧州本部訪問。2010年NY国連本部で開催されたNPT再検討会議に参加。明治学院大学に入学後、NPO法人ピースデポユースとしてNPT再検討会議に参加。2016年から2021年3月までヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダーを務め、国内外で1370万を超える署名活動の事務局を担った。現在は長崎大学RECNAで、被爆の実相のオンライン・デジタル化にむけたプロジェクトに取り組んでいる。



欠けていた視点・感覚

被爆者とわたしと同じ“普通の人”であるということ

被爆者を特別視・聖人化することによる課題

被爆前の長崎の

街並みや

人々の暮らしがわかる

写真を探しています。



被爆者が生きた長崎を残したい



詳しくはこちら





※RECNA/国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

※：フォトショップのニューラルフィルターを使用してカラー化したもの

スライド教材

馬の頭の四輪車に乗ってるのが私です。隣の姉が乗っているのを当時は「スケート」と呼んでました。今で言うキックボードですね。当時としては流行りの洒落たおもちゃでした。

解説 三瀬さんは7人きょうだいの2番目。昭和時代の前半、労働力や兵力を支える人口を増やそうと、国を挙げて出産が奨励された。「産めよ、殖やせよ」といったスローガンまで登場。7人きょうだいは珍しい人数ではなかった。

1936〜7年頃撮影（三瀬商店前）左から姉、三瀬さん、祖母、母



スライド教材

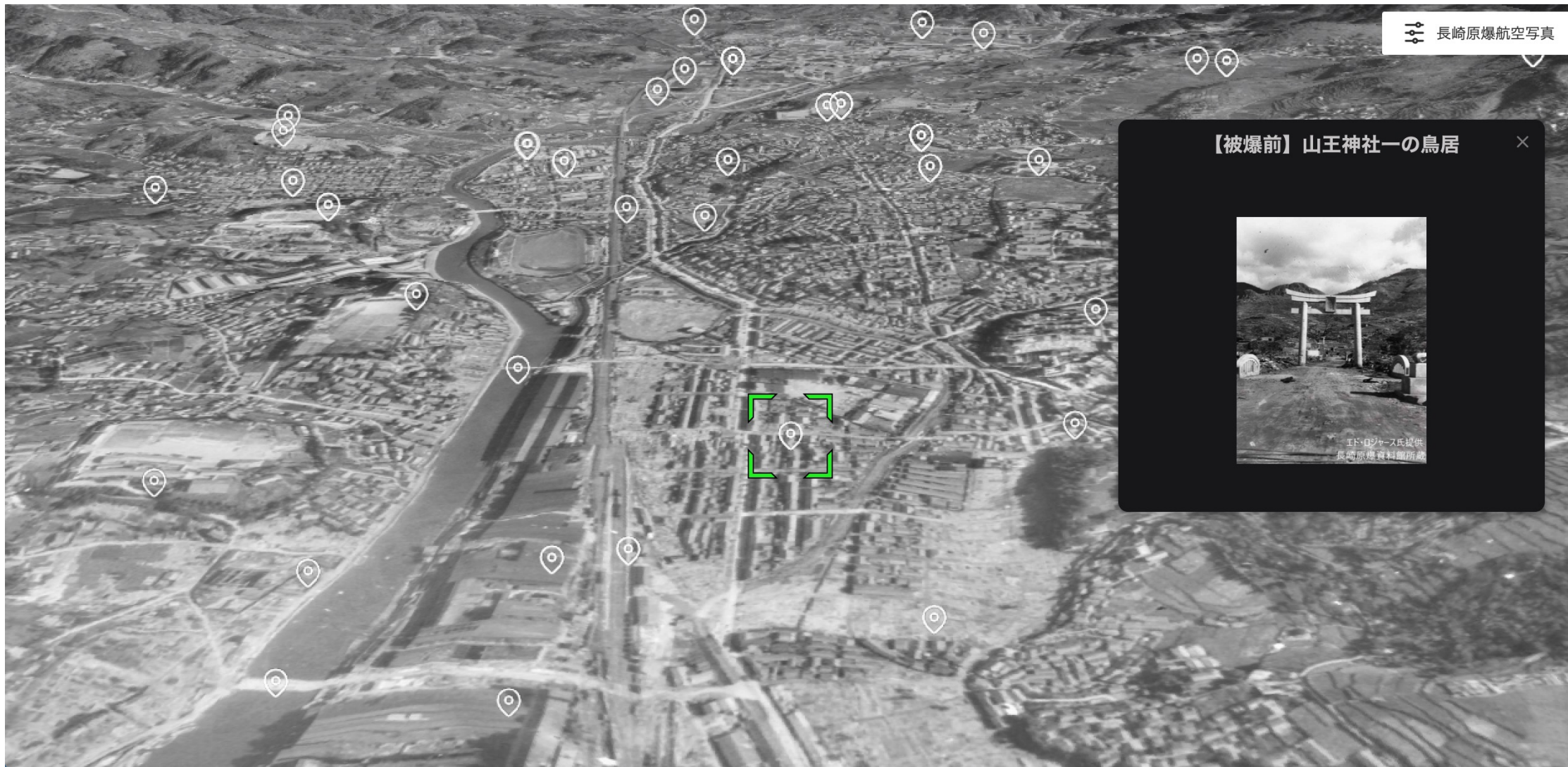
鎮西はミッションスクールだったので毎朝、生徒全員が講堂に集まりお祈りをする礼拝の時間がありました。礼拝のときにはみんな雑念なく素直に「アーメン」と唱えるんです。でも、教室に戻る通路で、友だちと『アーメン、ソーメン』なんてコソコソ言ってふざけて笑ったりしていましたね。

解説 鎮西学院の校史によると、戦時中軍部などからキリスト教教育に圧力が行われた最中も礼拝は行われた。しかし、戦況の変化とともに、圧力も次第に激しくなり、1944（昭和19）年、礼拝は中止に追い込まれた。



1943（昭和18）年ごろ 学校内道場 右前で寝転んでいるのが城崎さん

航空写真アーカイブ



写真や教材をまとめたwebサイト



I want to tell you.

I want you to know.

被爆前の日常を

(参加無料)

想像する

「被爆の実相の伝承」の
オンライン化・デジタル化事業
成果報告会

2024年2月18日(日)

時間
14:00
|
16:00

会場
国立長崎原爆死没者
追悼平和祈念館
交流ラウンジ



事業概要説明 &
トークセッションの進行

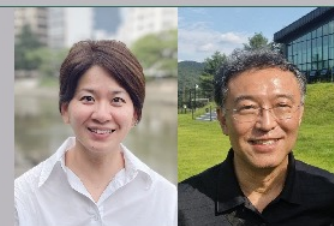
林田光弘
(RECNA特任研究員)

01

トークセッション
14:15-15:00

「被爆前後の航空写真を
使用したデジタルマップの活用」

[登壇] 全 炳徳(長崎大学 情報データ科学部教授)



トークセッション
15:10-15:55

[登壇]
宮崎 園子(フリーランスライター:広島在住)
佐々木 亮(フリーランスライター:福岡在住)

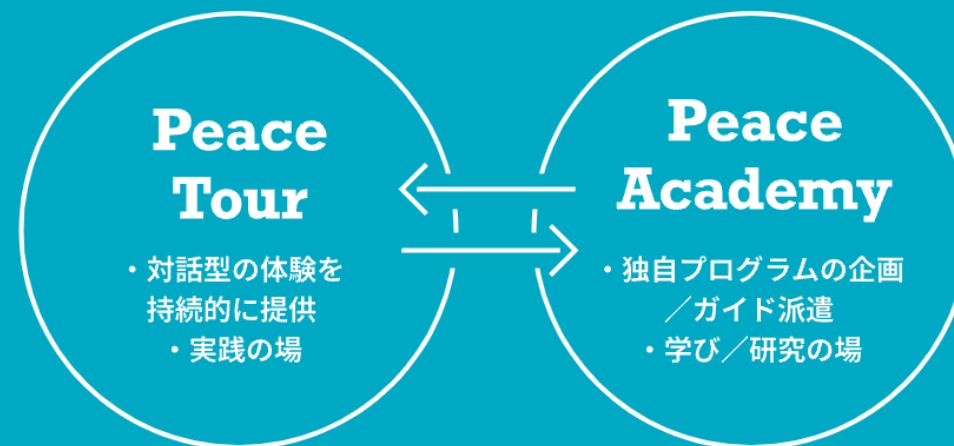
「被爆前の日常を伝えるデジタル教材づくり」

02

Peace Education Lab

価値観を変える
学習体験を提供し、
社会を変える人を育む。

私たちは長崎を訪れる国内外の方々への
体験学習の提供と、
長崎の若い世代を対象とした
人材育成の、
2つの事業に取り組みます。



TourとAcademyの両輪で取り組むことで、
社会課題解決のために行動する人を、
持続的に育みます。

